

品

三年

画数 9
筆順 ロロロ品
オン ヒン
クン しな

成り立ち



うつわの形をあらわした「品」を三つかさねて作った字で、「うつわ」↓「しなもの」といういみをあらわした字です。一つでは、「くち」とくべつがつかなくなりすので、三つかさねて「うつわ」↓「しなもの」であることとをあらわしました。

しなものは「しなさだめ」といって、よいわるいをきめてじゅんじよをつけますが、人のばあいも「しなさだめ」をするものですから、「人から」のことを「品」というようになりました。人からがよいのが「上品」で、わるいのを「下品」といいます。

使い方

▽わたしは、おかあさんとデパートに行きました。色々な品物があつて、目うつりがしました。おかあさんは、どの品が良いか、色々と品定めをして、一番良いと思うのが買えました。でも、デパートという所は、大変つかれる所だと思いました。
▽おかあさんは、山本さんのおねえさんのことを、上品なおじょうさんだと言いました。山本さんのおねえさんは、とてもやさしくてきれいです。

熟語例

▽品物（なにかの役に立てる、形のあるもの。家の中のもので言えば、お茶碗やお皿も品物ですし、食器棚やテーブルも品物です。）

▽品定め（品物を、あれが良いか、これが良いかと、選ぶこと。）

▽品質（品物の質。品柄。「このお茶は、とても品質が良い」などというふうにつかいます。）

▽人品（人柄。人の柄の良し悪し。「人品いやしからぬ紳士」といえば「人柄の良い、立派に見える男の人」といういみになります。）

使い方

負

三年

画数 9
筆順 ノ 竹負負
オン フ
クン まいける いかす おひら

成り立ち



「人」の形をあらわし、「人」といういみをあらわした「人」と、「貝」の形をあらわし、「財貨（お金）」のいみをあらわした「貝」とを組み合わせて作った字で、「人が財貨を」たのみにする「こと」をあらわした字です。「たのみにする」こと↓「たのむ」こと。例自負。

人が「たのみにするもの」を「うしろだて」というところから、「うしろにおう」↓「せおう」といういみにもつかわれます。例負荷、負担。

「せにする」ことから「せを見せる」↓「まける」といういみにもつかわれるようになりました。例勝負。

使い方

▽ぼくの今年の抱負は、毎日早ね早おきをし、すきざらいをいわずになんでも食べ、じょうぶな体を作ることです。

▽しあいに負けることはいやですけれども、勝負は時の運ですから、負けてもくやしがつたり、がっかりしたりはしないつもりです。

熟語例

▽自負（自分の力を「たのみにする」こと。「自信」があること。）

▽抱負（心の中に抱いているかんがえの中で、ぜひ行いたいと思ひ、またやれる自信のあるもの）

▽負担（負は「せおう」、担は「かつぐ」こと。にもつをせなやかやかたにのせることで、「自分のしななければならぬいしごと」のいみにつかいます。）

▽負荷（「荷もつをせおう」といういみのことばで、「おもしろいことを負わされること」をいいます。）

▽勝負（「勝ち負け」といういみのことばですが「勝ち負けをきめる「あらしい」や「しあいに」のいみにもつかわれます。）